

第 4 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和8年6月22日（月曜）		午前9時30分		開会
	休 憩 9:32-11:35				
	午前11時46分 閉会				
	休憩時間：2時間3分		会議時間：0時13分		
会 議 場 所	役場3階委員会室				
出席委員 氏 名	委員長 木村 淳彦		委 員 伊藤 稔		
	副委員長 堀切 忠		委 員 菊池 秀明		
	委 員 正村紀美子		委 員 鈴木 健充		
	委 員 早苗 豊				議 長 梶澤 幸治
説 明 員					
参 考 人					
欠 席 委 員 氏 名					
事務局職員	総務係主査 大石真澄				

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

（1）調査事項

ア 総務経済常任委員会所管施設調査について

資料 1

- ・委員長：施設調査実施の旨を告げ、11 時 35 分まで休憩とする。
- ・委員長：本日の調査事項「ア」について、施設ごとの調査の感想等を伺う。
「小水力発電所について」
- ・菊池委員：農業基盤整備とゼロカーボンの推進を両立する可能性があると感じた。一方で、安定した収益確保や将来的な設備更新費用等を含めた長期的な事業性の検証が重要である。
- ・早苗委員：美生ダム用水が、芽室町だけではなく、近隣の市町村にもその恩恵が行くということは非常にいいこと。小水力発電の売電収益により、受益者負担が少しでも緩和されるという意味で、大変期待の持てる施設だと感じた。
- ・鈴木委員：ダムの有効活用事例であると感じた。事故のない運用を目指していただきたい。
- ・伊藤委員：売電収入により受益者負担も軽くなる。良い施設ができたと思う。
- ・正村委員：1,300 万円の施設費をかけても、維持管理費等も含めながら、売電収入で

賄っていけるのはメリットがある。

- ・堀切委員：小水力発電は、今後ゼロカーボンに向けて、非常に期待できると感じた。
- ・委員長：美生ダムを活用できる仕組みであり、今後決算を見ながら、維持管理経費、積立金、受益者負担がどの程度軽減されたか等について、注視していきたい。

・委員長：「上伏古コミュニティセンターについて」

・伊藤委員：敷地が広すぎるかと思ったが、災害時、避難所とし活用するには有効な設備だと感じた。

・正村委員：ほかの地域と比べても面積が大きい、防災関連設備が充実していることから、災害時には拠点となり得る施設だと実感した。

・堀切委員：かなり大きな施設だと感じた。利用者台帳をみても、利用件数が多い。設備が充実している。

・菊池委員：地域住民の活動拠点として十分な機能を備えていることが確認できた。今後、人口減少、担い手不足が進む中で、施設の維持だけでなく、誰が支えどのように使い続けるのかといった視点も含めて、今後調査していく必要があると感じた。

・早苗委員：農村地域の集会施設としては利用率が大変高い施設。地域の自主活動が多い地域性を反映し、有効に活用されている。

・鈴木委員：設計段階から、有識者のアドバイスや地域協議も熱心に行い、将来を考えて設計された施設。結果、利用率も高く、防災への備えも充実している。今後、利用者の生の声を聞いてみたいと感じた。

・委員長：地域施設が地域のコミュニティーにつながっているという実態を利用頻度から見て取ることができた。抽出事業である「地域集会施設再整備事業」の参考として、今後の委員会調査に反映させていきたい。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

正副一任とする。

(2) その他

・委員長：「その他」で各委員からないか？

・(なし)

・委員長：事務局からないか？

・(なし)

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和8年6月22日

総務経済常任委員会委員長 木村 淳彦

議 長	副議長	局 長	係 長	主 査	作成者氏名 大石 真澄